

所 報

第 3 5 号 1998年10月発行
発 行 人 翁 長 良 盛
発 行 所 沖縄県立教育センター
〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀587番地
電 話 098-933-7555
F A X 098-933-3233



夏休み親子園芸教室より

目 次

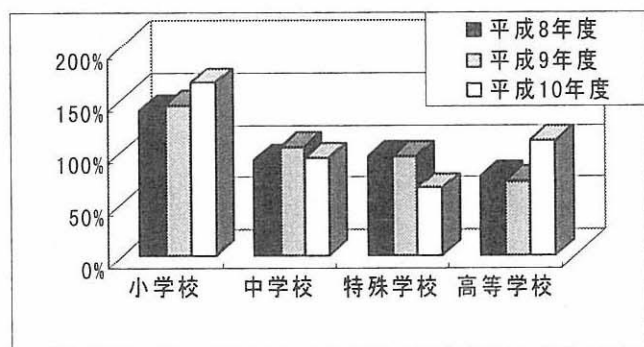
夏休み親子園芸教室より	- 1 -
「研究室だより」	
【化学研究室】この夏 1700人余の受講者でにぎわった短期研修講座	- 2 -
【教育工学研究室】よそおい新たな教育工学研究室	- 4 -
【教科研修課】前期長期研修を終えて（初陣・私立高校からの研修生）	- 6 -
平成10年度長期研修員（前期）研修テーマ一覧	- 7 -
【特殊教育課】中国から特殊教育課にお客さん	- 8 -

この夏 1700人余の受講者で にぎわった短期研修講座

担当 奥間 有（化学研究室研究主事）

今年も教育センターでは、夏休み期間中に短期研修講座を実施しました。今年度は小学校、中学校、県立学校併せて60講座を開設し、そのうち新設の講座として、幼稚園2講座、産業教育課6講座を実施しました。

短期研修講座は、希望研修講座で、毎年多くの応募があります。今年の実参加者は、小学校が1033人、中学校289人、高校331人、特殊教育諸学校119人で、それぞれの応募率は、166%、94%、110%、65%となっています。



短期研修講座の実参加率の推移

特に、実参加率の高い講座は、小学校図画工作実技講座529%、小学校パソコン教育利用講座283%、高等学校パソコン教育利用講座335%などでした。

各講座とも、今日的教育課題の解決をめざし、日頃の授業実践に役に立つ内容などを取り入れて実施しました。

今後も現場のニーズに応えられるよう「来て、聞いて、やってみて、ためになる」短期研修講座をめざして、実施していきたいと考えています。

ご意見やご要望がありましたらお寄せ下さい。次年度もたくさんの実参加をお願いします。

今年の短期研修講座の中から・・・

一 小・中・高特別活動実践講座一

特別活動実践講座の講演、仙崎武先生『新世紀に対応する進路指導の在り方「生きる力」「心の教育」との関連を踏まえて』、吉浜朝幸先生「これからの教師に期待されること」は受講者に好評でした。

事例発表、研究協議題として、「学級活動の指導の工夫」「児童会・生徒会活動の進め方」「目的意識を高める進路指導」などで熱心に発表や協議が行われました。

受講者の感想

・小学校からの進路指導の大切さを痛感し、進路指導は人間としての生き方・在り方の指導であることを実感しました。

一 生活科研修講座一

事例報告「夏よこい」や「冬もたのしいこといっぱいだね」では、夏の身近なセミの教材化や、冬の教材の扱いが困難な中で教材化をとおして、子ども達の楽しい学習の様子を報告してもらいました。

豊かな表現力を育む教材づくりでは「パネルシアター」を制作しました。

受講者の感想

・子ども達がとびつきそうな素材ですね、すばらしい素材を紹介していただきかったです。



—小学校図画工作実技研修講座—

実技研修として「バニーマーブリングとマドレーマーブリングの基礎と応用」「色彩指導の基礎と表現方法」「人物画、風景画の基礎と応用」を行いました。誰でも楽しくできるマーブリングの方法や、見たとおり描きたいと思っている高学年の子どもに視点をあてた人物、風景画の指導の工夫などについて研修しました。

* 受講者の感想 *

- ・ 図画の基礎・基本を知る良い機会でした。日頃の指導で気にかかっていたことが解決できたような気がします。



—小学校理科観察・実験講座（中・高学年）—

講演は、元学校長具志仙吉先生「実験・観察の意味するもの」と題して行いました。

実践発表や観察実験は「野草の教材化」「生き物のくらしと季節」「もののあたたまり方と体積」「てこのはたらき」「チョウに育てよう」

「地形や地層の観察」等、授業で使える教材の製作や観察実験をしました。



—小・中・高・特環境教育指導講座—

今年から、環境教育は高校、特殊教育諸学校にも

応募の枠を広げました。

「環境教育モデル校の実践発表」「ヤンバルの自然の巡検」を行い、「土の中の生き物をとおして」では、自然の豊かさを調べる実習をしました。分科会では各校種に分かれて、環境教育の在り方と教科で取り組む環境教育について活発な意見の交換がなされました。

* 受講者の感想 *

- ・ 報告や野外での実習などがあり、盛りだくさんの内容に満足しています。
- ・ 理科学的な内容が多かった、来年は他の教科で取り組む環境教育についても充実させてほしいです。



—高等学校パソコン教育利用講座（Ⅰ）—

コンピュータの活用能力を高めるために、学級通信作りに役立つ「DTP入門（ワードの活用）」、マルチメディアな教材提示ができる「プレゼンテーション技法（パワーポイントの活用）」、Windows95のプログラミング言語「Visual Basic 入門」の実習をしました。

* 受講者の感想 *

- ・ いろいろな応用の仕方を学ぶことができ、教材研究や授業に活かせることができます。

—特殊教育教材・教具製作研修講座—

講義「特殊教育における教材・教具」や学校で活用した教材・教具の事例報告、制作実習をしました。作品紹介では、参加した先生方のいろんなアイデアが生かされたものが紹介されました。

* 受講者の感想 *

- ・ 工夫して取り組んでいる先生方の教材はとても参考になります。

よそおい新たな教育工学研究室

～情報処理教育課への移設にともなって～

教育工学研究室 研究主事 比嘉恵一

本年度より、教育工学研究室が教育経営研修課から情報処理教育課に移設し、新たな環境下でその役目を果たすことになりました。改めて移設の主旨を確認し、よそおい新たな教育工学研究室の現状を紹介します。

情報処理教育化への移設の主旨

① 従来、教育工学研究室では「教育工学機器を活用した学習指導の改善」を研修テーマに設定し、このテーマのもとに長期研修員を受け入れてきました。研修内容をハード面からみると、

イ VTRやOHPを中心とする教育機器の活用
ロ コンピュータの活用

に大きく分けられます。ところが長期研修員のニーズを、上記イ：ロの比率でみると、1：7（平成5年～平成9年）となっており、コンピュータを活用した研修のニーズが高い状況にあること。

② 教育工学機器のめざましい技術革新とパソコンへの統合化（パソコン画面でのビデオ編集、OHPの機能の一部がパワーポイント等のプレゼンテーションソフトとして機能アップ）が進み、それへの対応が迫られていること。

③ これからのコンピュータ時代における教育工学研究室の機能の充実改善を図る必要があること。

以上の主旨をふまえ今年度より情報処理教育課の仲間として、日々研修に励んでいるところです。

移設後の状況

ところで移設後の現在、教育工学の長研員にとってはこれまで以上に恵まれた環境のもとで研修ができるようになりました。

まず人的には、情報処理教育課の主事全員が、研究室の壁を越えて指導にあたる体制や、研修員相互も切磋琢磨しながら研修できる状況があり、教育工学研究室の研修内容の充実に大きな前進を期しています。

物的にも、コンピュータが研修員それぞれに割り当てられ、種々のソフトにふれる機会も多くなり、研修内容が一段と充実されました。

しかし移動によって不便をきたす面も出てきました。教育工学研究室の実習室であり、ソフト作りの拠点であるAV研修室と離れてしまったために、ビデオソフト制作のために通わなければならない、長研員には不便になったことです。



夏休み短期研修

教育工学研究会OBからの提言

教育工学研究室の情報処理教育課への移設に先立って、従来、本県のエデュ工学研究の充実発展のため誠心誠意を尽くされたOBの方々から貴重な提言をいただきました。

① 過去の視聴覚教育の負の現象を繰り返さないこと。OHP等の教育機器を単に利用することに目が向けられ、「何のために」「どのような目的で」機器や教材を利用するかという教育理論が欠けていた時代の反省をふまえること。

② 教育機器を「使うことが目的」というマニュアル的認識に落ち込まないこと。

近年ニューメディア時代を迎え、特にコンピュータ利用が普及するにともない、「授業設計の認識」に影が生じ、過去の「利用するのが目的」という現象が再発し、また最も基本である「OHPの利用」さえ危ぶまれている状況にある。当然コンピュータもその延長上にあり、「最適な手段としてのコンピュータ利用」ではなく、「使うことが目的」というマニュアル的発想が多々みられ、これを克服しなければいけないこと。

③「授業設計」の重要性をしっかりとふまえること。

ニューメディア時代を迎えた現在こそ、教育メディア全般の特性を見極め、その特性に応じた「学習のシステム化」を図った授業設計に基づく教育メディア利用を推進しなければいけないこと。

およそ以上の観点から下記の研修の開設が強く要請されました。

1つに、教育機器利用の基本であるOHP・スライド等の正しい利用法に関する研修

2つに、各教科の授業改善に最も基本である授業設計に関する研修

3つに、教育機器の特性に関する研修

4つに、教育情報データベースの構築に関する研修等々でした。



検証授業

OBからの提言を真摯に受けとめて

教育学担当主事としては、OBからの提言を貴重な提言として真摯に受け止め、その意を汲みつつ努力しているところです。

まず、1つめ、3つめの提言に関しては、昨年まで教育経営研修課のみの必修講座として開設し

ていた研修を、今年度より教育経営研修課に加えて、教科研修課・特殊教育研修課に対象を拡大したことです。さらに情報処理教育課は自主研修でありながらほとんどの研修員が参加し、教育機器の特性とその利用法について互いに理解を深めることができたと考えています。

次に、2つ目に関してですが、本年度前期は、すでに4月から6月の間に3回に分けた研修を実施しました。

必修講座ではなく、自主的参加の研修であり、当初、参加者が少なくなることを心配していたのですが、実際には3回とも、45部印刷した資料がすべてなくなってしまうほどの盛況でした。研修員の授業設計に関する熱意の高さを感じ、実施した者としては、OBの提言もしっかりふまえ、今後とも是非継続し深めていきたいと考えています。できれば、現在、理科研修課が実施している「授業研究ゼミナール」のような形態で、全課で実施できる事を望むものです。

おわりに

教育学研究室の果たすべき役割について、あらためて整理しておくと、①学習プランの立案（授業設計）に関する研究、②指導プログラム（教育学的手法を取り入れた学習指導案）の作成に関する研究、③学習教材の分析（指導目標に到達するまでの指導手順に関する論理分析の手法）に関する研究、④学習教材の編成（様々なメディア教材の活用、観察・実験・実習、生徒の活動を活性化させるための授業編成の工夫）に関する研究。教育機器の技術に関する詳しい知識の習得や、それらを教育活動にいかにか効率的かつ有効に活用していくか、に関する方法と条件の科学的追求、等々があります。

これらの領域における研究を深めつつ、新たに得られた環境のもとで、コンピュータ教材の特性に関することや、教育情報データベースの構築と活用に関する研究も対象領域とし、教育学研究室の一層豊かな研究の充実を図らなければいけないと考えています。

前期長期研修を終えて

～初陣私立高校からの研修生として～

教科研修課

興南高等学校 教諭 平 良 俊

研究室の窓から“美ら森”が見えます。とっても、落ち着き、安らぎを覚えるのは何故だろうと思ったりします。あっという間の6ヵ月でした。いろいろな事が走馬灯のように頭の中をよぎるのです。

今年、初めて私立学校から研修員として、ここ県立教育センターで研修させていただきました。

センターの第一印象は掃除が行き届いたきれいな所だと思いました。そして、所員、研修員がみんな元気です。常に目的意識を持った人たちの集まりという感じがしました。

私は自分の研究テーマからすると、自分自身の研究は3ヵ月もあれば終わってしまうように考えていたのです。しかし、その考えはいとも簡単に覆されました。特に、長研講座の内容の豊富さには驚かされました。必修、希望を含めて25講座程度はあったでしょうか。どの講座も私にとっては、とても有益な講座でした。そして、テーマ検討会、中間検討会、研修成果報告会と、ほんとに内容の濃い研修期間が終わりました。今回の研修で得た事、当然一言で言い尽くせるものではありません。しかし、朝は早くから夜は遅くまで、共に頑張った研修員の仲間たち、そして主事の先生方がいらっしゃったということはとても心強く、この研修での最も大きな成果です。この絆はこれからも永遠に続いていくものと信じています。研修員同志で互いの研究内容について真剣に考え、「あーでもない、こーでもない」と議論を交わし、考え、身につけたものは一生の宝物ですし、いろいろな面でこれからの私の支えになると確信しています。

ここ県立教育センターでの研修経験を現場での教育実践に生かしていきたいと思っています。研修員の仲間たちと主事の先生方、そして翁長所長をはじめ所員の方々には感謝いたしております。ほんとうにありがとうございました。

1998年9月25日

理科研修課

沖縄女子短大附属高校 教諭 石川 栄

4月3日の入所式で教育センターでの研修がはじまり、はや4380時間が過ぎ去ろうとしています。

いま振り返ってみると地球の回転が速くなってきているのではないかと思うぐらいセンターでの日々が刹那に過ぎ去った感があります。しかし、この半年間私にとって毎日毎日が新鮮で充実した有意義な研修ができたと感謝しております。特に、主事の先生方をはじめ長研の先生方の一日の過ごし方に接し、各自が自己管理といひましようか、セルフコントロールした生活を送る真摯な態度に感銘しています。

早朝から黙々と清掃する先生方の姿をみて、子どもたちに「生きる力を育む」とは、まさに教師が自らの生活を律し、真面目に一生懸命に生きている姿をみせることではないかなあーと思っています。私も先生方の「真摯な態度」を持ち帰り附属高校の生徒たちと共に「生きる力」を育てていきたいと思ひます。

さらに、授業を展開していくときに大きな忘れ物をしていたことに気づきました。これまで、「基礎基本を大切に」ということをあまり気にせず授業を展開していた感があります。とかく、親や子どもたちのニーズに答えるために、常に、受験、受験……で授業を展開して来たが、これからの授業展開は「基礎基本を大切に」しつつ、なお且つ、子どもたち一人一人の希望が叶えられるような授業展開を心がけることが必要かと思ひます。

また、21世紀を目前に控え私たち一人一人が「地球環境」を考慮に入れて日々の生活を送らなければならないという事もわかりました。この美しい「地球環境」を子々孫々に受け継ぐためにも自然と調和の取れた社会発展をさせなければならないと思ひます。これからは常に、「環境教育」を念頭において明日、いや来年、10年先を“みすえた”授業展開ができたかと思っています。最後となりましたが、この半年間の研修で得た示唆を大切に「太陽が万物に分け隔てなく光を与えるがごとく」子どもたち一人一人を大事にしていきたいと思ひます。

有難うございました。

1998年9月25日

平成10年度前期研修員「研修テーマ」一覧

課	校種	研 究 室	研 究 テ マ	氏 名	勤務校	
教 育 研 修 課	小 学	道 徳	自己を見つめ、よりよく生きようとする道徳学習の工夫 ー総合単元的な道徳学習を通してー	田盛千恵美	坂 田 小	
		経 営	望ましい人間関係を育てる学級経営 ー低学年における集会活動を通してー	国仲 智子	与那原小	
		特別活動	自主性を育てる学級活動 ー 中学年における話し合い活動を通して ー	山城 善史	大 浜 小	
		教育相談	小規模校における人間関係づくり ー「思いやり」や「信頼関係」に焦点をあてたグループ・エンカウンターを通してー	内間 和昭	宜野座小	
		教育相談	学校教育における養護教諭の役割-「簡易文章完成法検査」及び「バウム・テスト」による心の問題の早期発見-	下地千鶴子	津 波 小	
		へき地教	複式学級における学習指導の工夫 ー さとうきびづくりを中心とした『総合的な学習』の支援計画の作成 ー	花城 裕子	崎 枝 小	
	中 学	道 徳	道徳的判断力を育てる道徳指導の工夫 ー 道徳ノートの活用を通して ー	狩俣みさお	北 谷 中	
		経 営	学級経営の充実を図る学年経営 ー 生徒指導を通して ー	島尻 廣文	渡名喜中	
		進路指導	目的意識を高める効果的な進路指導 ー 「進路計画」の指導を通して ー	慶田 貴子	仲井間中	
		進路指導	目的意識を高める効果的な進路指導 ー 啓発的体験学習を通して ー	金城 健一	寄 宮 中	
		教育相談	不登校の理解と状態・時期に応じた家庭・学校の対応の在り方-神経症的不登校を中心にして-	前里 幸男	中 城 中	
		特別活動	主体的に考え、互いに認め合う集団活動 ー ディベートによる話し合い活動を基に ー	下地とみ子	浦 添 中	
	高 校	経 営	地域社会と連携協力した「魅力ある学校づくり」をめざしてー実施のための幾つかの視点ー	川上 辰雄	普天間高	
		経 営	学部経営の充実をめざす学部評価計画の作成 ー目標の具体化と評価の客観化を図って ー	仲村 稔	大平養護	
		進路指導	主体的に進路を選択・決定ができる生徒の育成ー進路指導カードの作成とその活用 ー	久場 安雄	那 覇 高	
		教育相談	青年期の不適応徴候を示す生徒の発見と対応ー心身症発見のための「健康調査」を通してー	新垣ひろみ	美里工業	
教 育 研 修 課	幼 児	幼児教育	よき気づき、感動する幼児の育成をめざしてー小動物や草花とかかわる環境づくりを通してー	石嶺 篤子	浦添幼稚	
	小 学	国 語	対話能力を育てる国語科の学習指導の工夫-第4学年説明的文章「カトがニを守る」の学習を通してー	目取真康司	高 原 小	
		国 語	論理的に表現する力を育てる学習指導の工夫 ー第5学年説明的文章の指導を通してー	北村 民子	白 川 小	
		算数数学	問題解決力をはぐくむ算数の指導と評価の工夫-開いた課題を用いた問題解決的な学習を通してー	石 坂 晃	天 妃 小	
		生 活	生き生きと活動する児童の育成をめざしてー体験学習「つくってあそぼう」の実践を通してー	金城由香利	兼 原 小	
		社 会	生きる力を育てる社会科学習の工夫 ー問題解決学習を通してー	浦崎 直哉	屋 良 小	
		社 会	子どもの興味・関心を高め、歴史認識を深める指導の工夫ー「天下統一のゆくえ」を通してー	甲斐 達二	開 南 小	
		英 語	小学校における英語学習の指導の工夫 ー生き生きとした英語体験活動を通してー	上原 周子	浦 添 小	
		音 楽	創造的な学習活動の充実を図る指導の工夫 ー合奏における創作活動を通してー	大 城 武	金 城 小	
	中 学	国 語	一人一人が意欲的に取り組む国語科授業の工夫 ー文学教材の読みに課題学習を取り入れてー	饒平名和枝	西 辺 小	
		算数数学	個に応じた数学の指導と評価の工夫 ー自己評価表の活用を通してー	宮 城 肇	首 里 中	
		社 会	「地理的な見方や考え方」の基礎を育てる指導の工夫-身近な地域における効果的なフィールドワークの指導を通してー	比嘉 恒雄	真志喜中	
		英 語	コミュニケーション能力を伸ばす授業の工夫 ー音読指導と言語活動を通してー	山城 秀樹	羽 地 中	
		美 術	造形的な創造活動を高める指導の工夫 ー野焼きによるオカリナ作りを通してー	赤 嶺 敏	浦 添 中	
保健体育		自ら学ぶ力を育む学習指導と評価の工夫 ー水泳の授業を通してー	上原 広美	鏡 原 中		
高 校		算数数学	個に応じた数学の指導と評価の工夫 ー数学的に進んでいる生徒への指導を中心にー	野 原 剛	名 護 高	
		算数数学	カリキュラムの見直しによる数学の授業の効率化 ー中高一貫教育のメリットを活かしてー	平 良 俊	興 南 高	
	公 民	自己実現に向けての模索を深める倫理の授業をめざして-生徒の意識と接点を持つ教材の試みー	宮城 砂幸	首里東高		
	国 語	漢文に興味を持たせる学習指導の工夫 ー「琉球漢詩文」の授業を通してー	山本 円香	宮 古 高		
理 科 研 修 課	小 学	初等理科	自然に親しむ態度を育てる学習指導の工夫 ー「土と石をしらべよう」のクロスカリキュラム学習を通してー	永山ゆかり	北中城小	
		技術	興味・関心を高める学習指導の工夫ー自作教材77を活用した「電気領域」の授業を通してー	上原 尚善	大里中	
	中 学	生物	自発的に取り組む自然観察指導の工夫 ーサンゴ礁海岸の動植物観察を通してー	平良 正哉	知念中	
		地学	中高一貫教育における理科カリキュラムの編成（試案）	楚南 盛亮	興南中	
	高 校	生物	科学的な見方を養う植物観察の工夫ーミヤコジマツルマメの開花と閉鎖花の観察 ー	洲鎌 栄徳	宮古農林	
		家庭	豊かな食生活を実践させる指導の工夫ー「家族の献立作成」を通してー	宇良 圭代	名護商業	
		化学	「課題研究」の指導の工夫ー発展教材の作成を通して ー	前川 守克	那覇西高	
		化学	「ダイオキシ」の教材化 ー環境を保全する意欲と態度を育てる指導の工夫 ー	石川 栄	沖女付高	
	情 報 処 理 教 育 課	小 学	教育工学	教育機器を活用した学習指導の改善 ー5年社会科におけるコンピュータを活かした学習活動を通じてー	兼城 賢悟	安 謝 小
			情報教育	授業におけるコンピュータの活用 ー調べ学習の支援ソフトの作成ー	山城 祐市	奥 間 小
		中 学	教育工学	教育機器を活用した学習指導の改善 ー社会科における地域素材の教材化ー	謝花 篤	屋我地小
			情報教育	授業におけるコンピュータの活用ー表現に結びつけるための、類義語トレーニングソフト作成ー	朝崎由美子	松 島 中
		高 校	情報教育	コンピュータを活用した学習指導の改善 ー関数ソフトの作成ー	山川 和利	名護商業
			情報処理	生活情報科の「住居」におけるコンピュータの活用-KiT97による室内環境の学習支援ソフトの作成ー	阿波根章子	沖縄工業
特 殊 教 育 課	特 殊 教 育 課	情報技術	校内LANの構築 ー追試処理システムの作成ー	仲地 雄太	陽 明 高	
		特殊教育	領域・教科を合わせた指導 ー計算力を付けるための生活単元学習の指導の工夫ー	豊見山博子	読 谷 小	
		特殊教育	基本的生活習慣の系統ある指導の工夫 ー身辺処理能力の下位目標コード作成を通してー	宮城 政子	名護養護	
		特殊教育	興味関心を引き、積極的な活動を誘発する自作教材教具の工夫-子どもたちによる屏風式しかけ絵本の読み聞かせを通してー	長浜 勝直	鏡が丘養	
離 島 長 期 研 修 員	経 営	一人一人が生きる学級経営 ー話し合い活動を通して ー	与那覇幸枝	西 城 小		
	初等理科	自然に接する意欲や態度を育てる授業の工夫ーオオゴマダラの飼育観察を通してー	大嵩めぐみ	石 垣 小		
	国 語	生徒が意欲的に取り組む言語事項の指導法と評価の工夫 ー「文法」学習の指導を通してー	上原 久由	知 念 中		
	道 徳	心豊かな子供が育つ道徳指導の工夫ーモデルレマ資料を用いたディスカッション授業を通してー	崎山 絹江	大 浜 中		

中国から特殊教育課にお客さん

特殊教育課 指導主事 横山 久



李 朝霞

平成10年度沖縄県海外技術研修生として中国(2名)・ボリビア(1名)ブラジル(2名)アルゼンチン(1名)から、7名のみなさんが来沖しています。その中のひとりが写真の

人です。8月のひと月間を特殊教育課で研修しました。そこで、彼女に自己紹介と沖縄や研修等についての感想をお聞きしました。

自己紹介

わたしは、中国から参りました李朝霞と申します。福建省福州市ろうあ学校の教員です。

今回は、沖縄で障害児教育について勉強したいと思います。

7月沖縄語学センターで日本語を勉強しました。8月県立教育センターで、障害児教育を研修しました。9月から来年3月まで沖縄県立沖縄ろう学校で研修します。これから一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

8月の県立教育センターでの研修の感想について

沖縄はきれいです。沖縄県人は優しいです。ですから沖縄っていいところです。

私は大好きです。

8月には、県立教育センターの特殊教育課で研修を受けることになりました。

特殊教育課では、盲・ろう・養護学校で教えるた

めの、教育方法を研修しました。

沖縄の習慣についていろいろ学びました琉球舞踊も習いました。

教育センターへ来てから、一ヶ月ぐらいです。外国の研修生は私だけですから寂しいです。でも、国際交流課の大城さんと親川さんや特殊教育課の具志川課長・城間先生 横山先生・仲村渠先生・古我知先生・宮城先生・豊見山先生・長浜先生・新田先生など教育センターのみなさんがとても親切にしてくださいのおかげで、心温まり、過ごすうち故郷や家族と離れた寂しさと言葉の壁を乗り越えることができました。みなさんが親のようになっています。みなさんと友好的な雰囲気になれています。研修はおもしろいですが、言葉は難しいです。教育センターの人はみんなよく説明してくれました。教育センターの具志川課長と先生方にいろいろなことを指導していただきました。私に細かい心配りをしますので、謹んで心から感謝の意を表します。本当にお世話になりました。9月からは沖縄ろう学校で頑張ります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

李さんと話をしていて、日本語が通じない場合があります。その時は漢字の筆談になり、かなり多くのことが理解できます。

日本語を勉強してから2ヶ月足らずですが、快く取材に応じて下さいました李朝霞さんに感謝し、実り多い研修になりますように祈念いたします。